

人里のニエスレタ

日本ホテルの会 2001/8 第18号

「蛍狩り」のわらべ歌

日本ホテルの会理事 小西正泰

敗戦前の日本各地の水辺には、ヘイケボタル（水田、池沼）やゲンジボタル（清流）が数多く発生していた。そして、夏の夜を彩る風物詩として、蛍狩りは老若男女うちそろって楽しむ年中行事の一つであった。

とりわけ子どもたちには欠かせない集団の遊びであり、全国に地方色ゆたかな蛍狩りのわらべ歌が生まれた。それらの歌を“採集”し、活字に残してくれた本も少なくない。

まず、町田・浅野（編）『わらべうた』（1962。岩波文庫）には北から南までの4首が県名と楽譜入りで採録されており、それぞれ変化に富んでいるので、代表例として引用させていただくことにしたい。以下、他書からの引用は改行、字間、仮名づかいなどを原典どおりとした。

（1）ホーホー蛍こい（秋田）

ホー ホー 蛍こい
あっちの水は ^{にーが} 苦いぞ
こっちの水は ^{あーま} 甘いぞ

ホー ホー 蛍こい
^{やまみち}
山路 こい

^{あんど}
行燈の光で
又こいこい

（2）蛍の親父（栃木）

ホ ホ 蛍 来い
蛍の親父は 金持ちで
夜は^{ちようちん}提灯 高のぼり
昼は草葉のお露のみ
ホ ホ 蛍 来い

（3）谷川の水（佐賀）

ホ ホ 蛍こい
谷川の水^く呉りゆう
谷川の水^いァ 要らんこんな
^{ほい}堀の水 ^{ゝゝく}ちい呉りゆう
ホ ホ 蛍こい

（4）じんじん（沖縄）

^{ゝゝゝゝ}
じんじん じんじん
^{サカヤ} ^{ミジ} ^{ティ}
酒屋ぬ 水くわて
^{ウティ}
落てりよー じんじん
さがりよー じんじん

[歌意：蛍よ蛍よ、酒屋の水飲んで、落ちろよ蛍、さがれよ蛍。]

続いて、首数の多い順に文献名と実例二、三を紹介する。

○南 喜市郎『ホタルの研究』(1961。自刊)、(1983。サイエンティスト社が復刻)。

著者が昭和8、9年(1933、34)に自ら全国各地で調べたもの72首が地名入りで採録されており、資料価値が高い。

・ホタルこい こい あっちの川は深いぞ
こっちの川は浅いぞ ホタル虫は親孝行虫だ
親を尋ねてこい こい こい (千葉県)

・ホ ホ ホタルこい 山伏もこい こい こい
阿弥陀の光で 皆よってこい こい こい
ホタルの虫は油もいらぬ あかりもいらぬ
阿弥陀の光で 皆まってこい こい こい
(静岡県)

・ホタルさん えいこっちゃ 頭に^{づきん}頭巾かついで
尻に提灯 ともいて(岡山県勝山)

ちなみに、長崎県五島の歌などは、注釈がないと解説できない。

○神田左京『ホタル』(1935。自刊)、(1981。サイエンティスト社が復刻)。

“ホタル”の百科全書と称されるこの本には、他書と「できるだけ重複しない」よう配慮した21首が地名入りで採録されている。神田は長崎県佐々村の出身であるが、全国に普及している「ホ ホ ホタルこい、…」をその生地とともに記しているのは意外に感じた。そういえば、私が小学校時代を過ごした秋田県花岡町でも、この歌と同様であった。

また、相坂耕作『播磨の昆虫』(1988。神戸新聞総合出版センター)には、播磨地方で採集した歌が15首記されている。その

なかの

「ホ ホ ホタル来い
あっちの水は苦いぞ こっちの水は甘いぞ
お玉嫁入り 三吉仲人
うーちの父っつあん 槍かたぎ
槍の先で すってんとん」(赤穂市)などは、いかにも旧城下町のものらしくおもしろい。

その他、わらべ歌にかかわる多くの本にも蛍狩りの歌が採録されているが、省略する。

このへんで近隣の朝鮮半島に話題を移そう。同地でもかつては蛍狩りがさかんであったらしく、多くのわらべ歌が残されている。たとえば、狭間文一『発光動物』(1943。春秋社松柏館)には「朝鮮の蛍狩」という一章があり、「里の子供達が声はり上げ、豊穰に波打つ田園の秋の夜を彩る秋窓蛍を追ふ風景こそは、詩情豊かな朝鮮の初秋の景物詩である。…」として、わらべ歌4首を紹介している。それは、まず朝鮮語の発音をカナ書きし、その次に日本語訳が付されている。ここには、そのうち2首を邦訳で引用する。

・蛍さん蛍さん
ぴかぴか光る蛍さん
こつちで私と遊ぼうや
あつちに行けば暑^{あつ}ついぞ
こつちに来れば涼しいぞ

蛍さん蛍さん
私の好きな蛍さん
あつちに行けば真暗な
溝の中に落ちこんで
綺麗な羽根が濡れるぞ (西鮮の元山)

・前の家の^{けえとん}開童さん
後の家の^{ぼくとん}福童さん
こつちの川でもびいかぴか
あつちの川でもびいかぴか
袋をさげて行きませう
はやく行きませう蛍捕り

(咸鏡南道の北部)

(注) 朝鮮語ではケートンもポクトンも
犬の糞の意で、ホタルをケートンポレ(犬
の糞虫)と呼ぶ。

ちなみに、朝鮮半島では蛍狩りの対象は
アキマドボタルの雄である。雌は翅が退化
して飛べない。

日本では今や蛍狩りどころか、ホタル
観賞(ときに「鑑賞」と誤用)の時世となっ
た。それで、蛍狩りのわらべ歌も(イベン
ト以外では)聞かれなくなって久しい。さ
びしいことである。

ホタルは私たちの青春!

ーキャンパスでのある日ある時ー

創価大学螢桜保存会顧問 井上 務

「螢桜保存会」はキャンパス内でホタル
を飼育しているクラブです。日本の大学で
ホタルを飼育するクラブは多分、創価大学
だけだろうと誇りにしています。世界で唯
一かも?とさえ思っています。クラブ名の
由来はキャンパス内を「螢」が舞い、万葉
の「桜」が咲き誇っている素晴らしい自然
環境をいつまでも守ろう!と活動を始めた
からです。シンボルとしての「螢」と「桜」
を冠して螢桜保存会と命名されました。
2000 本と言われているキャンパス内の桜
は入学式には新入生を迎え、夜にはライト
アップされ近隣の方々に喜んで頂いており
ます。嬉しいことに保護活動は不要の状態
にあります。そのようなわけで今のところ
クラブの活動は専らホタルに集中しており
ます。もちろんキャンパス外の環境問題も
視野に入れて研鑽を続けてきました。今回、
活動の一端を報告する機会を与えて頂き
部員一同、大変に感謝致しております。

さて、何年か前のお話しです。私達の
フィールド(水路と飼育現場)を見学され
た方がボツリと言いました。「初夏の風物

詩とか言って、ほんの僅かな期間だけ注目
されるホタル」「それまで、コツコツと地
道に世話をされる学生さん達は余程いい人
が変わった人たちですネ」と。何気ない一
言でしたが心に残りました。一般的に学生
のクラブへの加入は低迷する傾向にあります。
そのような風潮の中、ホタルを飼育する
という珍しいクラブに入部して喜々とし
て活動する姿とは?。「変わった人、いい
人」との一言にハットさせられました。最
近、首相が「変人」を標榜して人気を博し
ていますが「変人」の言っていたことが「フ
ツー」になったとき世の中は一步前進する
のだと思います。ホタルが昔のようにフ
ツーに舞う日本にしたいと思います。

さて、私達「螢桜保存会」は1980年に発
足。昨年は20周年記念の集いを開催しま
した。部員トータル100名突破記念、東京
ホタル会議のホタルサミットがキャンパス
内で開催された記念等も同時に祝賀する集
いでした。先輩達が全国から駆け付けまし
た。現役生は初めて会う先輩から「僕らの
青春だったクラブを存続させてくれてあり

がとう！僕らの時よりたくさんホタルを飛ばしてくれてありがとう！」と握手されたりしていました。20年間で100名とは1学年あたり5名の部員数です。新入部員がゼロの時もあったようです。私が顧問を任されてからの6年間にも入部1名という年がありヒヤヒヤしました。部員数10名を割り込むとクラブは同好会に格下げです。ホタルを確保するのと同じようにいろいろな工夫と苦労を新入部員獲得のために考えます。例えば、新入生がキャンパスに溢れるのはちょうど幼虫上陸の頃です。幻想的な光を放ちながら上陸する様子を観察する会を催して参加者に入部を促します。キラキラと光りながら上陸するシーンに感動、翌日、部室を覗いてくれた女子学生が2人いました。その2人が部室から出てキャンパス内を歩いています。たまたま私は2人の数メートル前を歩いていた。前を歩くオジサンを顧問とは知る由もない2人が「私、ホタルは見るだけにする。だって幼虫って毛虫なんだもん！」と言っています。「新入部員2名減」と心の中でつぶやきました。私はその足で部室に戻り「毛虫のような幼虫が美しい光を放ち、やがて成虫は大空を舞い人々を感動させる。あなたも今の自分の姿からは想像も出来ないような立派な人間になるために私達のクラブで

ホタルを育てよう！ぐらいの説明を！」とアドバイスしました。顧問になった翌年から2年間は女性が部長でした。アドバイスが少しは効いたのかな？と思っています。

クラブ最大のイベントは「ほたるの夕べ」です。毎年千人を超える方々が来学されます。「ほたるの夕べ」と定期試験が終わると夏合宿です。長野県辰野で勝野先生を講師に緑陰学習会（96年）、愛知万博予定地調査（97年）、柿田川湧水地（98年）、奥多摩で水棲生物観察（99年）、郡上八幡でオオサンショウウオ（2000年）等の合宿を重ねて来ました。今年は八丈島。発光キノコを見に行きます。学園祭には模擬店と展示で参加。本年7月には小学校からの要請でホタルの授業を担当する機会に恵まれました。

部員一同、全国の先輩達からたくさん学んで創価大学キャンパスをホタルの名所にしようと頑張っております。八王子にお越しの際は是非お立ち寄り下さい。大歓迎いたします。

「韓国ホテル研究会」来日

近年韓国では環境問題への関心が急速に高まっているようです。特にホテルは大きく取り上げられ、各地でホテル祭りが盛んに開かれています。2年前には「韓国ホテル研究会」が発足しました。その「韓国ホテル研究会」から「日本ホテルの会」にホテルの飛べる河川づくりの事例について問い合わせがあり、「朝倉川育水フォーラム」の取り組みを紹介しました。

愛知県豊橋市の商工会議所内に事務局を置く「朝倉川育水フォーラム」では“ホテルのとびかう人里づくり”と題して多自然型護岸形態、循環型まちづくり、里山の再生、ビオトープづくりなどの活動を展開しています。当会では朝倉川の流域ビジョンを作成するに当たってお手伝いさせて頂いた経緯がありましたので、韓国側にその資料を提示したところ是非現地を見学したいとの要望があり、今回の来日の運びとなりました。

6月1日（金）に豊橋市役所にて韓国ホテル研究会の皆様をお出迎えしました。韓国側からは孫興大会長、許永徳自然環境課長（茂朱群）を始め約40名が、豊橋側からは早川勝豊橋市長、佐藤元彦商工会議所会頭、青木徳生朝倉川育水フォーラム理事長を始め約30名が参加しました。役員の方々

のあいさつの後、各会の組織の概要が紹介されました。韓国ホテル研究会の会員数は約150名で、大学・国立研究所、地方自治体、民間企業、市民団体などのメンバーで構成されており、ホテルの生息環境保全および人工増殖、生態環境資源化の技術研究、遺伝資源の利用技術研究などの事業を展開していくようです。会食の後、地元の小中学生も交えてホテルを觀賞しました。宿泊先では日本ホテルの会事務局の鈴木浩文さんによる「日本におけるホテルの研究と保護活動」と題した講演がありました。

翌日は朝倉川の多自然型の護岸と源流部につくったビオトープを見学しました。ビオトープは約2000㎡の敷地につくられ、フォーラム会員以外の付近の小中学校とともにメンテナンス、ホテルの放流、自然観察会などを行っているようでした。昼食後は、豊橋商工会議所にて韓国ホテル研究会の今後の取り組みについて活発に質疑がなされました。

今後ホテルを通して日韓の交流が深まっていくことを期待いたします。最後に本交流会を開くにあたり朝倉川育水フォーラム常務理事の西川幸孝さん、事務局長の鈴木拓也さんには大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



韓国ホテル研究会孫会長の挨拶



朝倉川見学の様子

「板当沢」観察会開かれる

さる5月20日(日)、東京都八王子市板当沢において日本ホタルの会が主催する観察会が開催されました。板当沢は北浅川に流入する小さな沢の1つで、都立高尾陣馬自然公園の一部にあたります。ここでは3年前から「板当沢ホタル調査団」がホタルを始め土壌動物、植生などの調査を行ってきました。観察会当日は15人の方に参加して頂き、板当沢ホタル調査団事務局の小俣軍平さんに解説をお願い致しました。



板当沢観察会の様子

約2 Kmの林道沿いにオバボタル、オオオバボタル、クロマドボタル、ゲンジボタルの生息環境を観察しました。また、「板

当沢ホタル調査団報告書第2集」が参加者に配布されました。

事務局からのお知らせ

・第2回談話会の開催

9月29日(土)午後2時より、昭和女子大学において談話会を開催致します。話題は、当会理事の林長閑さんによる「水生昆虫の幼虫について」です。当日は会場および資料代として300円をお願い致します。

・第10回シンポジウムの開催

11月10日(土)午後1時より上野動物園ホールにおいて「ホタルを通して身近な自然環境を考える」シンポジウムを開催致します。ただ今シンポジウムにおける講演を募集しております。ホタルや水生生物、人里環境などについて話題をお持ちの方は事務局までご連絡をお願い致します。

詳細につきましては、いずれも後日ご案内申し上げます。

人里へのニュースレター 第18号 平成13年7月31日発行



日本ホタルの会
JAPAN FIREFLIES SOCIETY

編集 日本ホタルの会事務局
発行 矢島 稔

156-0041 東京都世田谷区大原2-17-6
ステーションプラザ代田橋410
(株)オーグラム内 日本ホタルの会事務局

TEL & FAX: 03-3328-7379

e-mail: KYW07337@nifty.ne.jp

印刷 プリントランドスガイ

239-0815 神奈川県横須賀市浦上台2-27-936

TEL: 0468-43-1356 FAX: 0468-43-1366